

# 「糖尿病予防のための戦略研究」

(背景と経緯) 糖尿病は社会経済的活力と社会保障資源に及ぼす影響の極めて大きい疾患である。わが国では、その可能性を否定できない人まで含めるとその数約1,620万人にも及ぶ。生活習慣の急速な変化などを反映してこれらの数は近年急速に増加しており、糖尿病の予防・合併症の重症化抑止対策の確立が急務となっている。そこで、循環器疾患等総合研究事業「糖尿病予防のための戦略研究」において、研究課題のアウトカムと詳細な研究計画を策定し、平成17年度から5年間の予定で実施することとしている。

## 「糖尿病予防のための戦略研究」の概要と研究成果

研究課題	成果 (アウトカム)	研究方法
1	耐糖能異常から糖尿病型への移行率を半減	地域・職域健診要指導者で30-64歳の耐糖能異常4,500名を対象。参加地域・職域を「予防支援群」と「従来指導群」に割付し、「予防支援群」に提供されるIT等を用いた「生活習慣変容支援サービス」が、耐糖能異常者の2型糖尿病発症を予防する効果を検証する。
2	糖尿病患者の治療の中断率を半減	地区医師会(人口20万以上)に在住し、かかりつけ医で治療する2型糖尿病患者2000名を対象。参加地区医師会を「診療支援群」と「通常診療群」の割付し、「診療支援群」に提供される「糖尿病診療達成目標ITシステム」および「診療支援サービス」が診断中断率を改善する効果を検証する試験。4医師会を対象とするパイロット研究から開始。
3	糖尿病合併症の進展を30%抑制	糖尿病専門医を擁する病院に通院する高血圧および高脂血症を合併する2型糖尿病患者約3,000名が対象。「強化治療群」と「通常治療群」に無作為割付し、「強化治療群」で行われる生活習慣(減量、食事、運動、禁煙)、血圧、脂質、血糖の厳格なコントロールが糖尿病合併症の進展に及ぼす効果を検証する。

糖尿病予防・合併症の重症化抑止対策の確立

【糖尿病戦略等研究事業】